役場だより

発行
潟東村役場
印刷所
北洋印刷株式会社

八月のメモより

一、樋浦博士の講演におもう。

七月二九日、本郡西川町出身の北海道の酪農（らくのう）大学の学長である樋浦博士の講演を島方校舎で聞きまして、ふかく感ぜさせられました。

先きに何度も書きましたように農村は変りつつあります。経済、教育、思想等々の原因でとにかく刻々に変りつつあります。並木正吉さんの「農村は変わる」という本の中で山形県庄内平野の一農民の述懐（愚痴をいいたてること）であった。かれは、農業を手伝う次三男が急速に減っていることを次のように語った。

「私達の若い時代は、小学校を出た次三男は、五年でも十年でも、家の農業を手伝ったものだ。それがそれまで育ててもらった恩がえしだった。いまどきの若いものはちがう。高等学校まで出してもらいながら、すぐに就職してしまう。その希望をきかずに、農業の手伝いさせると均等相続しろとせまられる。それより学資を出してやった方がよい。」おやじ達はそう考えていると「そうよ、考え方を切りかえたのだ」と何人かが同調した……

考えて見ますと、所得から見て農家はたしかに割がわるくなってきました。一世帯の所得をくらべると、

	昭和二七年	昭和三二年
農家世帯	二八万円	三四万円
勤労者世帯	二五万円	三九万円

となっています。これでは都市へ人がながれこむのは当然であります。

そこで残って農業を営む若い人たちは今までの考えではとても行かぬことになってきました。

樋浦博士は「これからの農民は頭がよくなければならぬ。生産はよい頭でどこまでも科学的にせねばならず、出来た生産物は売るための研究が大切であり、それをよく達成できる政治運動までやらねばならぬ」と語られました。詳細は「公民館報」で発表されますでしょう。私は全く同感で商品となるべき農業生産には、市場の傾向をよく研究して商品価値の大きいものの生産をねらい、その手段としては、どこまでも科学に徴することなくしてはとても駄目と観念せねばなりません。

いたずらに農民の不運をなげくより、すすんでこれに打ちかつ心がまえが大切であります。そのため頭のよい人が望ましく、そしてよく研究する人が欲しいのです。それとともに、いたずらに農民の不運をなげき宿命観におちいることなく、これの打開に政治に反映させる必要がきわめて大切であると思います。このことは、私は平素から考えていたことであるのを博士が同じ意見を申されましたので一層自信をつよめました。

二、心配ごと相談所の開設

家庭というところは外から見ますと平穏無事に見えても、とかく何かと心配ごとがあるものです。生活のこと、親子のこと、夫婦のこと、などことの大小軽重さまざまですが悩みが有るものです。ところが昔から「家の恥は外へさらすな」といって誰れにも話さずに一家中で悩んでおられるため却って困ったことになる場合も少くありません。

そこで村では、この度村内の民生委員のお宅を「村の心配ごと相談所」とし民生委員を係りにお願いして皆さんの相談に応ずることにしました。役場では厚生係長の渡辺さんをその係にしてあります。私もその相談に応じます故、皆さんは御遠慮なく各民生委員の方でも、又役場の厚生係でもお話にお出下さい。必要によっては、皆さまに代って第三者と話し合いもしますし、又官庁やその他の調査もして上げますが、話の内容は絶対秘密にいたし、相談所へお話になったことは、他へ決してもらしませんから安心して来て下さい。

三、鎧潟干拓対策委員会

鎧潟もいよいよ干拓になります。潟といえば遠藤を思う程遠藤をはじめ潟東村会体と大関係がありますのですがそれが近く担担たる農地に変るとなると、私達としては色々の注文が出るのは当然であります。試作地の問題、漁業者の問題、入植の問題、増反の問題から更らに道路、試験場の設置等々に対する要望と同時に、新川の水位上昇に伴う破堤の問題等に幾多の問題がありますので、この度村で対策委員会をつくって研究し、要望事項を取りまとめその筋に強く要望することになりましたので、皆さんの方でもこと潟に関することについての要望事項は、この委員会へ申し出て下さい。

四、県道の整備

県路の整備についてはできるだけよくしたいと念じていますが、何分にも県も経済に難儀しておるため思うようには行かず残念に存じていますが、それでも一歩一歩と前進しています。

県道で工事を始めた処は国の補助事業として巻、白根線中今井部落内と今井茨島間（昨年できた東方）で五間道路がフルに立派になり、今井地内は住宅地であるため両側に側溝をつけたものができます。ただ残念のことは今井部落内での県道が非常に曲がっている部分は到底現在のままでは近代的の道路になり得ないため除外されたことであります。スピード時代の道路に曲がりは禁物であるので、曲っている処は将来補正しませんと改修して貰われませんことを覚悟せねばなりません。

次に近く着手されるのは三方地内の蓄上げ工事ですが、私達としては土地改良区四ツ合出張所迄と切望したのですがとても駄目で今年も九〇米だけ実施される予定であります。処が蓄上げするため道路の巾が不足するので堀を埋める必要があるが、埋めれば堀を狭ばめて水位を高むる結果となるため望ましくなく、さりとて、宅地の方へ拡げんとすれば並木にかかるという問題にぶつかっているためその実施に悩んでいる処ですが近く対策をきめて工事が始まるでしょう。

井随地内の改修工事は本年実施を目標として只今努力中であります

なお、県道としてぜひとも改修して欲しい横戸水沢地内と大原地内、三方地内の県道取り拡げと、横戸水沢地内の二つの屈曲の改修で夫々明年明後年を期して努力して居ります。

五、法は守りましょう

法律は守るべきもの、約束は果すべきでありながら、とかく守られず果たされずにしかも大してさわりの出ないこともままあるため承知しながら法にそむき約束をやぶるおそれがあります。村の集会場の敷地はそのよい例であります。農地を宅地にするには県知事の許可を要することは法であります。それを工事を急ぐため許可を待たずに土盛りをしたため許可が遅れて、急いだのが却って遅れる結果となり皆さんの御期待にそむいたことは申訳御座居ません。勿論かかることは他にも例の無い訳ではありませんでしたがもともと法に背いているのですから少しの故障でもあると直ちにうまく行かぬことになるのは当然であります

約束も同様で約束したことはどうしても果たすことにしたいものです。人の手前、気の弱さから反対ならず約束したり、方便で約束するようのことをさけて誠実に約束は果たしましょう。

（樋口）

固定資産の評価について

昭和二十五年地方税法の改正によりまして土地、家屋に対して固定資産税という新しい課税が実施されました。土地、家屋の評価に当っては当初貸貸培数方式に依ったのでありますが後、収益還元方式が取り入れられ以後三ヶ年毎に基準年度とされて評価変が行われ所定の税率で課税されて参ったのであります。現行の評価は昭和三十三年度に於いてなされたのであります。

今度国におきまして固定資産の評価に当って、評点式評価法なるものを制定致しまして土地、家屋に対して評価格を算定することとなったのであります。

潟東村も合併後も旧四ッ合、旧大原の従来の評価方式を其の儘取入れて参りましたもので評価基準を異に致して居ります。昭和三十六年度が評価基準年度に当りますが本年度を以って潟東全地域の土地改良事業が終了致しましたので賃貸価格に依る評価は現形が無くなった今日甚だ困難であり土地改良の完成致しましたことに依って農地に対しましては改めて新しく現況によって評価を求めて税負担の均衡を計らねばならないと考えます。

茲に定められました評点式評価法なるものに依って土地、家屋の評価を求め固定資産税の課税評準と致さなければならないと考えるのであります。

此の度私固定資産評価員という大任ある職責を引受けなければならないことなりましたが、土地家屋の評価に当りましては全く経験に乏しく且職務の困難さを考えます時小身其の職責を全くし得るかと誠に心を痛めて居る次第で御座います。

評価はあくまでも公平であり妥当でなければならないと考えますので広く村民の皆様の御意志を求め適正なる評価を求め度いと考えまして固定資産評価補助員として大字惣代区長さん十七名、米里、大曾根乙を除く各字からの推せんをして頂きます方々が十五名、及四ッ合、大原両土地改良区出張所代表二名の三十四名の選任をお願致した次第であります。近日中県より担当係官のおいでを願って説明会を催し係官の御指導を仰ぎ、補助員の方々とも良く御協議を頂いて評価の万全を期し度いと念じて居りますので村民各位の深甚なる御協力を賜ります様お願い申し上げます。

土地に対しましては本年度中に評価を終えて昭和三十六年度より新しい評価による課税の基準に資し度いと思いますが家屋につきましては事務の都合上明三十七年度の課税の基準に資し度いと計画して居ります。

詳しいことに付きましては係よりお伝え申し上げることに致してありますが何卒御協力を賜ります様重ねてお願い致します。

（昭和三五、八、二五）青木環

固定資産（土地）評価補助員が選任されました。

（税務係）

部落	氏名	
井随	渡辺乙蔵	
同	小林仁一	
島方	丸山勝次	
同	佐藤高麗男	
横戸	丸山佐吉	
同	坂井松衛	
水沢新田	田中正雄	
同	揖斐賢治郎	
遠藤	岡本卯之一	
同	岡本太三治	
卯八郎受	西村富太郎	
同	中村忠作	
五之上	高橋誠一	
同	長沼長作	
米里	河村三之烝	

耕地調査員氏名

部落名	氏名	
井随	新木荘一	
同	滝沢勝吾	
同	青木高治	
島方	小林八二郎	
同	吉次郎	
同	湯川庄治	
横戸	石井二三郎	
同	坂井松衛	
同	吉崎仁起知	
水沢新田	前沢治一郎	
同	渡辺利帰知	
遠藤	星伊三郎	
同	岡本太三治	
同	星野広作	
同	大島秀治	
上大原	関耐介	
同	竹内平太郎	
下大原	青柳真十郎	
同	山岸忠太郎	
番屋	大谷義雄	
同	金永栄門	
茨島	笠巻半三郎	
同	尾暮半三郎	
称名	西村信吾	
同	竹内弥曾一	
今井	平松武雄	
同	星隆治郎	
国見	渡辺寅平	
同	山岸二三	
大曾根甲	田中庄一	
同	設楽麻津男	
大曾根乙	杉山平太郎	
土改四ッ合出張所代表	武田金六	
土改大原出張所代表	田村高作	
卯八郎受	南波又市	
五之上	富井実	
同	高嶋繁世	
上大原	成沢悦次	
竹内	平次郎	
下大原	青柳次郎	
番屋	金永義雄	
茨島	尾暮長三郎	
同	佐藤重吉	
称名	田辺藤次郎	
今井	勝山初太郎	
同	平松勝治	
国見	渡辺与三郎	
大曾根甲	田中庄一	
大曾根乙	杉山七一郎	

（米里を含む）

鎧潟干拓対策委員会設立

委員会の委員の数	四三名
委員長 村長	一名
村議会議員	一〇名
土地改良出張所	六名
農業委員会	二名
各大字総代	十七名
農業協同組合	三名
開墾組合	二名
漁業組合	二名

実行委員会の委員の数一五名

委員長 村長	一名
村議会議員	五名
土地改良出張所	二名
農業委員会	一名
各大字総代	三名
農業協同組合	一名
開墾組合	一名
漁業組合	一名

氏名決定次第お知らせいたします。

国勢調査みんなで明るうみんなより

寄稿

マッシュルームを栽培して

小山草英

今回村長さん並び助役さんを始め、村当局の甚大なる御助力により、マッシュルームの出荷組合ができますことを心から感謝致します。二、三年前から、なんとかしてこの経済的に急迫しているといわれている潟東村に適した副業を取り入れて金詰り状態を打開し、農家経営の合理化を計りたいと考えておりました。

ところが今年の正月、毎日読んでいる「日本経済新聞」に「マッシュルームの栽培」というのが書いてあり、自給肥料の増産或いは営農の合理化、農家に於ける栄養改良、現金収入増加など農家の副業として、有利な条件を備えているらしかったので、「面白そうだ、やってみよう」という気持ちになり黒埼村の普及事務所、農協、役場、「農産加工農協」へ行って堆肥を積み込んだものを見せてもらい、帰える時、先輩若林証吾さんに会ってその話をしたら、第一農協の青年部で今年度の事業としてやって見たらという案があるのだとのことでした。

次の日、私は外でワラを切り、吹雪の中で積込みを始めました。量が少なかったので、外部をビニールで巻いてみたが一向に熟は上がりません。第一回は見事な失敗に終わりました。

それから数日後坂井興治さんが若林部落の名物の一つであるプロック建築の堆肥舎の中で、共同に試作してみないかときそわれ、坂井興治さんと若林証吾さんと私の三人で力を合わせて約五坪分のワラを一月三十一日に積み込み、一週間目毎に化学肥料を規定の量だけ入れて切り返しを行なった。堆肥の熟が六十度～七十五度の高温の切り返しをやりました。その間、たびたび加工農協へ出掛けて行って親切な御指導を受け、また高田の権威ある小林先生の講演を聞いたり、或いは加工農協の指導員から出張してきてもらい、色々と教えて頂きました。とても設備が良かったので順調に堆肥はできたのですが、少し過湿気味であったため、後の醗酵に日数がかかり、更に加えて室内温度が十度～十三度位で足らず（適温は二十二度～二十三度位）天然ガスを利用して十五度～十七度に高めたが、予定日より非常におくれ、四月二十三日にようやくビンヘット（幼芽）の発生を発見し、四月二十七日から前日収穫し始め代カキ、田植時に最高量に達し、坪当り一日の収穫量は七百匁の時がありました。

隣近所や友人、親戚の家へたびたびやり大変に喜こばれ、或る時は料理屋やソバ屋が買いにきて下さった時もあります。

あの純白なマッシュルームは、黒埼村の加工農協へ出荷するのが当然であるが、何しろ農繁期で坪数も少なく、現在とは異なり村の協力もなければ輸送難でしたので今回はあくまでも試作であって、今後の改良に力を入れ、更に角目分らの手で作って見たいというのが大きな目的でありましたから、自家消費にあてたり、多くの人々から試食してもらったりしてもっぱらマッシュルームの存在価値、単作地帯の副業としての必要性のPR（宣伝）につとめました。

七月の十日頃から苗床温度が二十四、五度に達し、高温障害が現われ、七日二十五日以後は殆んど出なくなりましたが、気温が下がり九月の下旬頃になったらまた出てくると思います。

くわしい栽培技術、日日の苗床温度、湿度の変化などは日を改めて発表致します。

我が国のマッシュルームは、食品としての主要な要素である蛋白質及び無機質に富んでおり、特にビタミンB1、B2、C、Dが豊富で、その缶詰は、海外市場に於いて、広く優秀性が認められており、しかも貿易為替の自由化により、今後ますます欧米諸国との文化の交流が頻繁になるに伴いその需用も多くなるなどでしょうし、また輸出農産缶詰のホープとしてその将来が大きく期待されますのでこの栽培も急激に増大すると思います。

皆さん、村当局の絶大なる御支援により出荷組合ができますので、一生懸命にマッシュルームの栽培をやり、経営の改善をやって、潟東村の特産物とし、新潟県のいや日本の特産物にまで高めましょう。

最後にマッシュルームの栽培に当って、第一農協の高橋組合長さん星野課長さんの経済的、物質的、精神的御尽力によって出荷態勢の完成を見ましたことを厚く感謝致します。

九月の稲作

稲の穂も出揃い田圃を廻っていると本当に気持のよい秋風が豊かに稔った稲穂の上を渡って肌にしみ入る季節となりました。七月中旬から続いた好天は、八月中旬や大雨があったとはいうものの大過なく今迄続いて来ました。早生稲はすでに色づき始め史上最高の豊作とか六年続きの豊作とか明かるい見通しが立てられています。

だが「俵につめて見なければわからない」とよく農家の方々から聞かされます。収穫までの作業はこれからが大変だと思います。最後の仕上げを立派にやって期待通りの作柄にするために何を注意したらよいものだろうか考えて見たいと思います。

一、病害虫防除と除草

西蒲原はひえの多いことで有名です。まだひえの目につく田圃も多いようです。ひえ取りに入ると倒れる心配のある所は例外としても洞気や生育のさまたげになるひえは、一日も早く取り除きたいものです。そのついでに二化メイ虫にやられた白穂も一緒に引き抜くことは非常に有効なことです。

今年はセジロ、ツマグロなどのウンカ類が非常に多い年です。潟東村ではほとんど防除しなければならない所は見当りませんが油断大敵です。赤塚村では二俵三俵の減収の予想されるところが多くあります。

二、落水の時期は

「稲の花見て掛水二〇日」、普通の田圃では出穂頃から糊がたまりする頃迄水は切らしたくないもの（中間に一日や二日の落水は時々あってもよい）だが草出来がよく土がどろどろしているような田圃は早中晩とわずに四、五日干し上げて土をしめてやる事が必要でしょう。そのあとで必要なものはまだ走り水を入れてやることも忘れてはなりません。

三、台風の季節です

台風前に必らず水を入れ十分水分の補給が出来るようにする、と同時に刈り取り近かいものは人工倒伏によって脱粒を防ぐことも考えましょう。農林四十一号、ぎんまさり、平和もちなど脱粒の多いものです。

四、刈取り時期

出穂後四〇日～五〇日で刈取り時期となります穂が大部分黄いろくなり穂の基の方に二、三粒青味のある程度の時期がよいでしょう。刈遅れは胴割れやつやをなくして品質を落します。

五、西川米の声価をあげよう

乾燥！乾燥！乾燥をよくすることが後の作業を楽にし米質もよくて収入を増やすこと、品質が問題になる時代、品種間の較差金もつけようかという時代、来年の作る品種は一に米質、二に収量、三に作業の都合を見て、決定したいもの。（曾根地区農業改良普及所）

国勢調査の実施について

経済課

八月号にも掲載しましたが、十月一日には国勢調査が行なわれることになっております。

国勢調査といえば、人口を重複や脱漏なしに調査しなければならないとか、人口の構造や分布に関する統計を作るために各人の特性など調査するというような、大まかなことは皆様御承知と思いますので、今回は調査項目とその説明などを記述して、皆様の御理解と御協力をお願いしたいと考えました。

では主なる調査事項を列記しますと

（基本的事項）

1 氏名
2 世帯主との続柄
3 男女の別
4 出生の年月日
5 配偶の関係
6 国籍
7 一年前の常住地

（教育に関する事項）

8 在学か否かの別
9 教育程度

（経済活動に関する事項）

10 就業状態
11 就業時間
12 就業している事業所の名称および従業地
13 所属の産業
14 職業
15 従業上の地位

（生産力に関する事項）

16 結婚継続年数
17 出生児数

（世帯および住居に関する事項）

18 世帯の種別
19 住居の種別
20 住宅の所有の関係
21 居住室の畳数

以上が主なる調査事項でありますが、次にこの調査項目の説明、あるいは、気付いた点などについて申述べることにします。

まず（基本的事項）ここでは**一年前の常住地**が新しく追加されたのですが、この項目は大正九年の第一回国勢調査以来、十年ごとの大規模調査では「出生地」の調査を行なっていました。これは人口社会移動の状況を調べるのがねらいだったわけですが、最近とくに終戦後を契機とし、その後の住宅事情なども影響したのでしょうが、出生地と現在地を比較した人口の動きというものの利用度が薄くなり、もっと短期間の移動を見る必要があるという声が強くなったため項目を変更したわけであります。

（基本的事項）のうち**氏名、世帯主との続柄、男女の別、出生の年月日、国籍、配偶の関係**の六項目は従来とあまり変わっていません

（教育に関する事項）この事項は昭和三十年の調査では調べなかった事項ですが、まず「在学したことのない人」と「現在在学中の人」と「卒業した人」とを分け、在学者と卒業者にその在学学校または卒業学校の種類を聞くことにしています。また、ことでいう学校の種類も、昭和三十五年には洋裁学校や予備校などの学校も入れて調査しましたが、今回は正規の学校に限ることにしました。学校を正規の学校に限ったのは、一つには、その水準の判定が非常に困難だということと、もう一つには一般国民の教育程度を見るという大きなねらいから、やはり正規の学校に限るべきであるとの意味で限定したのです。

（経済活動に関する事項）**就業状態**　経済活動人口の調査範囲を前回十四才以上ということにしていましたが、今回は十五才以上にした点が違っております。

事業所の名称及び従業地は前回同様、職業や産業を決定する際の照合、あるいは従業地と事業所の名称の組合わせた集計を行なって各自法人の選出などで意味は大きいわけであります。ここでは法人について、その組織の種類の記入を忘れないようお願いするわけであります。

就業時間　この事項は昭和二十五年にも調査しておりますが今回は、一週間の就業時間を四階級（十五時間未満、十五～三十四時間、三十五～五十九時間、六十時間以上）に分けて調査することにしています。これは三十五～五十九時間までの階級を最も普通の就業状態にある人として把えようと考えているわけで、あとは水準よりやや低い人と、水準以上の人という分け方をそのねらいとしているものです。

所属の産業、職業　ここは従来と変わっていません。

従業上の地位　この事項は前回と少し違っていますが、細かいことでありますので省略させて頂きます。

（出産力に関する事項）ここは結婚継続期間と、その間に生まれた子供の数から日本婦人の出産力を見、将来人口の推計に役立てようというねらいです。

（世帯および住居に関する事項）この事項は前回と若干違っていますが、あまり細かいことでありますので省略させて頂きます。

以上で項目及びそのねらいの概要を記しましたが、最後に世界人口**センサス**についてですが、国際連合では本年を中心とした前後の年に各国が国勢調査を行なうよう勧告しており、これを世界人口センサス計画と呼んでいます。今年の我が国の国勢調査もこの勧告を尊重して計画され、世界人口センサスの一環となっており国際的にも重要な調査であります。

以上種々申し上げましたが、この調査の重要性を御理解下さいまして、九月二十五日頃より別掲の調査員が参上いたしました際は、秋の取り入れに御多忙のことと思いますが、御協力下さるようお願いいたします。

昭和三十五年 国勢調査調査員氏名

出身部落名	氏名
井隨	鷲尾権之烝
〃	鷲尾貞策
〃	赤塚紐
島方	渡辺又一郎
〃	小林助司
〃	阿部民治郎
横戸	湯川政七
〃	石井達男
〃	坂井松衛
横戸	吉崎清
〃	前沢治一郎
水沢新田	広木東西
〃	本間毅
遠藤	大島秀治
〃	小林金一郎
〃	武田六三男
卯八郎受	南波又市
五之上	穂苅誠
〃	吉川弘
〃	大谷権作
上大原	笹崎与一郎
下大原	山岸猶次郎
番屋	金永省爾
茨島	長沼政一
〃	大原栄一郎
称名	井上保
今井	平松勝治
〃	小林九郎
国見	斎藤清
大曾根甲	設楽定夫

以上三十名

あとがき

お盆も過ぎ、秋祭も大方終り田園に黄金色の波が見えてきました。

八月は暗天が続き、風も殆んどなく、大豊作の呼び声も高くなり結構なことです。

小山草英さんより御寄稿がありましたがどうぞ皆様の御寄稿をお待ちしております。

取り入れの秋が間近かに迫り準備にお忙しいと思いますがお体に十分気をつけてお仕事をして下さい。

「役場だより」第九号をお届けいたしますからお仕事の余暇に御一覧下さい。

（編集係）